

みずきたたより

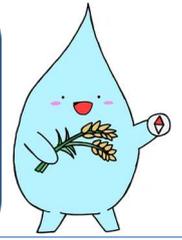
— かしこく やさしく たくましく —

第3号

瑞穂野北小学校

令和7年5月20日

発行者 阿久津 浩久



マスコットキャラクター
みずくん

チャレンジする力とは・・・

先日、東京都のある中学校で理科の実験中に生徒が体調不良を訴え、近くの病院で受診後に救急搬送される事故がありました。

中学2年生の化学分野の実験で、鉄と硫黄を混ぜて加熱すると化学反応を起こして「硫化鉄(りゅうかてつ)」という物質ができます。硫化鉄に酸性の薬品(塩酸や希硫酸など)を接触させると「硫化水素(りゅうかすいそ)」という気体が発生するのです。

硫化水素は火山から噴出されるガスにも含まれます。那須や塩原の温泉地で俗に「腐った卵のにおい」と言われる原因の物質です。

理科の実験で発生した気体のにおいをかく場合には、容器の口を手であおいて鼻に気体を送りますが、報道によると搬送された生徒は教師が手であおぐ指示に従わず、直接においをかいてしまったのだそうです。



小学校の教育活動においても危険を伴うものはあります。普段使用するはさみやカッター、図工で使うのこぎりや彫刻刀、家庭科での包丁とコンロ、理科における薬品と火気など・・・。実技としては体育での運動も当てはまるかもしれません。しかし、子供たちに新しい知識を習得させる、これまでやったことのない、できなかった技能をできるようにさせるためには挑戦が必要です。なので、私たちは「一般常識の範囲内での危険性」を十分に想定した上で教育活動を行っています。その想定される危険については、必ず注意事項を伝えます。

しかし、子供たちは「○○なので気を付けましょう」とか「◇◇してはいけません」ということに対して、好奇心からあえてそれをしようとすることがあります。世の中にはバンジージャンプやお化け屋敷など、スリルを味わうアトラクションがいろいろありますのでその心理は分からなくもないのですが、私たちが子供たちに求める「挑戦」は、肝試しや度胸試しをすることではありません。

本校が子供たちに育みたい資質・能力の一つである「チャレンジする力」は、「新しいことにも果敢に挑戦し、粘り強く達成を目指す態度」や「困難に対して、柔軟な発想や創意工夫でしなやかに対応する調整力」です。粘り強さや工夫・改善するといった「学びに向かう力」によって、新たな知識や技能を習得し、その知識や技能を生かす思考力や判断力を身に付けてほしいと考えています。

今回の報道を「対岸の火事」とせず、「他山の石」として教育活動の安全について確認するのはもちろんのこと、子供たちにも「これくらい平気だろう」などと油断させずに、だめと言われたことは絶対にやらないということを改めて伝え、起こらなくてもよい事故を可能な限り回避しながら学びの充実に取り組んでいきたいと思えます。

決まりを守ることについて、ご家庭でも話題にしていいただければ幸いです。